

# エアブラシでアクリジョン

Twitter : @kazz185

ブログ : <https://kazz185.work>

# アクリジョン塗装環境（1/2）

- 模型部屋
  - － 6畳の小屋裏部屋
  - － 通常の居室より天井が低い（1.4m以下）なので狭い
  - － ファンヒータか乾燥機の使用で湿度がみるみる下がる……
- コンプレッサ
  - － L5（GSIクレオス）
  - － 圧力計付きのレギュレータMkIV（PS305プラチナセット付属）
- ハンドピース
  - － PS290プロコンBOY LWAトリガータイプ
    - ・ 口径0.5mm、ダブルアクション
  - － オプションのハンドグリップ（PS-290G）使用
- 塗装ブース
  - － 自作
    - ・ ベースはフタ付き衣装ケース
    - ・ 換気扇はFY-24BM6K（Panasonic）
      - － 38.5dBと静か（L5が） だけど缶スプレーも大丈夫
    - ・ 詳細はブログで（<https://kazz185.work/post/10/>）
- 乾燥機
  - － 食器乾燥機（山善）



# アクリジョン塗装環境 (2/2)

- 温湿度計
  - EX-2717 (エンペックス)
- キッチンスケール
  - KJ-212 (タニタ)
    - 0.1gまで計測可能で、風袋機能付き
- うすめ液
  - アクリジョン エアブラシ用うすめ液
    - 中に攪拌ボール入ってる
  - 本資料内で単に「うすめ液」と書かれているものはエアブラシ用を指す
  - 筆塗りもこちらを使用
- お茶パック
  - アクリジョンをエアブラシで吹くときの最重要アイテム
  - ハンドピースのカップに塗料を入れるときにカップにかぶせて使います
  - トップバリュとダイソーを使ってみたけど、どちらも良さそう
- その他
  - タミヤの調色スティックを使用
  - クレオスのイージーカップで調色（でも最近紙コップも使ってる）
  - うすめ液はMr.スポイト（長）を使用して滴下



# エアブラシでの希釈について（1/2）

- 希釈に関して

- うすめ液は、**よー————く振る**（白く濁ってるのが正常）

- アクリジョン

- 塗料とうすめ液は、**1:0.84**

- 実際は、キッチンスケールの精度もあって0.8～0.9の間だと思う
- 塗料0.5gに、うすめ液0.42g
  - キッチンスケール上で塗料0.5g入れる
  - そこにうすめ液を0.9gになるくらいまで追加する
  - 別々に計って混ぜてないです

- クリア系（N-20やN-30）は、**1:2（か、それ以上）**

- 0.8倍で普通に詰まった(笑)
- こちらはおししょーさま（ @gong011976 ）からの情報
- 検証中です

# エアブラシでの希釈について (2/2)

- アクリジョンベースカラー
  - 塗料とうすめ液は、**1:1.1**
    - ベースホワイトは、最近1.1
    - ベースグレーは1.2でないと詰まりそうだった
    - 自作のベースピンク（ホワイト95%+レッド5%）は1.2でした
    - 同じベースカラーでも希釈率は変えていく予定
    - 計り方は通常のアクリジョンと同様（上記参照）

# エアブラシでの塗装とエア圧について（1/2）

- 吹く前に**お茶パックでろ過**する
  - ビンを開け閉めする際に、フタの内側に固着した塗料カスなどがビン内に入ります
  - それらをろ過するのが目的です。
  - クレオスさんから公式な回答はありませんが、塗料の品質に影響しないはず
  - 塗料はビン底を調色スティックでえぐるように、よく混ぜて使う
- 低圧で吹く（**0.03MPa**）
  - クレオスさんが「乾燥の早い色材は、風量を落とすことにより乾燥を遅らせ、つまりにくくなる」（プロコンBOYのエアアジャストシステムの説明より）と言っている。
  - 乾燥の早い色材・・・？アクリジョンのことかー( °Д° )ー
- 吹付けと乾燥を繰り返す
  - でてくる塗料の量はトリガーを引く量で調整するのではなく、ハンドピース後ろのニードルストッパーの締め具合であらかじめ調整しておき、トリガーは毎回フルで引く。
  - PS290のニードルストッパーを完全に占めた状態から1周より手前（330°？）まで緩めた状態
    - マステとマジックでマーキングしています
  - 乾燥は山善の食器乾燥機に任せる
    - ホコリ付き防止も兼ねてます
- Youtubeに動画をアップしてます（ベースカラー）  
<https://youtu.be/DA5-EkQoN-c>

# エアブラシでの塗装とエア圧について (2/2)

- ときどきうがいする
  - 先端のねじを緩めて空気をカップに逆流させるアレ
  - ハンドピースのカップ内で固まっていくのを防げます (あとの掃除が楽になる)
  - 1 パーツ塗装→乾燥ブースに入れて次のパーツを塗装する前にうがい
  - メタリック系は沈殿しやすいのでこまめに！
- 終わったらすぐ掃除する
  - 水と専用ツールクリーナー
    - カップ半分まで水をいれてうがい→捨てる
    - ツールクリーナーをカップに入れてうがい→塗装ブース内に吹付け
    - カップとニードルを外して、掃除 (終わったら戻す)
      - ツールクリーナーをしみこませた綿棒で、ニードルを掃除する
      - 同じくツールクリーナーをしみこませた綿棒で、ハンドピース内を掃除
      - 塗料皿に出したツールクリーナーでキャップを外した塗料ノズルを掃除
    - 外したものを元に戻して水でうがい→塗装ブース内に吹付け
  - あまり推奨されていないのは承知
  - ラッカー系と違って固まったら最後なのでここまでやってます
    - メタリック塗料を吹いたらこの掃除だけじゃ足りなかった(´;ω;`)